

体育指導と楽しさ

広橋 義 敬 (千葉大学教育学部)

1. はじめに

今回の学習指導要領の改訂に伴ない、体育科の学習指導では「楽しさ」が強く打ち出されるようになってきた。このことは、体育の指導効果を上げる上で非常に望ましいことであり、したがって、「楽しさ」を十分に生かした体育指導を展開する必要があると考えられる。しかし、現状における体育の学習指導は、「楽しさ」そのものの十分な吟味がなされないままに進められており、そのためにややもすると、情緒的でしかも表面的な快楽志向型の楽しさを求める傾向が多くみられるようである。

ここでは、このような現状における「楽しさ」の指導がよりよい方向に展開されること、換言すれば、真の体育指導の活性化や児童・生徒の運動実践の活性化に結びつく楽しさの指導を究明するために、学校体育における「楽しさ」のとらえ方・あり方を究明しようとするものである。

2. 人間の欲求と楽しさ、楽しさと教育

人間が感ずる楽しさは、一般に人間の欲求の満足に関連して生ずる感情であるとしてとらえられる。又、楽しさは、それが個人的にも社会的にも有害な行為を伴うものでない限り、それ自身、人間にとって価値があるとみなすことができる。したがって、「楽しさ」は諸欲求を満たそうとする目的的活動に伴う感情ではあるが、それ自身、人間の求める目的そのものになるものとしてもとらえられよう。さらに、楽しさは人間の欲求満足に関連して生ずる感情ではあるが、それは、人間が欲求を満たすために積極的に活動するための原動力ともなる感情でもある。人間は、何よりもまず感情的に、たえず楽しいものを求め、楽しくないものを避けていく傾向が強い。このように考えてくると、楽しさを人間にとって、個人的にも社会的にも大きな価値を生産していくための積極的な原動力になるようにするためには、満足させることの望ましい諸欲求を開発することが重要である。

3. 楽しさと体育・スポーツ

学校体育指導における楽しさのとらえ方・あり方を究明するには、楽しさと体育・スポーツの関係を究明する必要がある。

(1) 体育・スポーツと欲求の満足

体育・スポーツによって満たすことのできる欲求には、主に実践そのものによって直接的に満たし得るものがまずあげられる。人間の基礎的諸欲求に着目すると、運動(活動)欲求、解放欲求、遊び・ゲーム欲求、賞讃欲求、自己表現欲求、自己実現欲求、などはいずれも運動することそのことによって直接的に満たされるものである。

一方、知的教科の学習にあきたり、疲れたりしたときは、運動は活動欲求や解放欲求などを満たしてくれる。このことは、運動は、積極休息的なレクリエーションとしての役割を果たしているともみることができよう。

さらに、体育・スポーツによって満たすことのできる欲求には、実践の結果に伴うものがあげられ

る。実践の結果に伴う楽しさは、行うことそのことの楽しさにも波及していく。一般に、運動することそのことによる諸欲求の満足に伴う楽しさは、価値実現への欲求の満足にも役立つか、あるいは有害にならないようにするというを前提条件にして求めるようにすれば、個人的・社会的に有為な人間の育成に役立つと考えられる。

(2) 楽しさを感じるとき・ところ

体育・スポーツの楽しさは、行っているとき、見ているときだけに限らず、行っているときは苦痛しか感じなかったものでも、それを思い起すとき最大の楽しさを感じることがある。そこで、体育・スポーツの楽しさは、感ずるとき・ところに着目してとらえておくことが、体育目標とする「楽しさ」を理解するのに有効であると考えられる。

4. 学校体育目標とする楽しさのとらえ方・あり方

ここでは、学校体育目標とする楽しさの在り方の原則を示すことにする。

その第一の原則は、児童・生徒に、体育・スポーツの実践によって満たしうる望ましい諸欲求を開発させるようにすること、換言すれば、価値実現の楽しさを追求させることである。

第二の原則は、児童・生徒に、各種の運動実践の楽しさを、行うときの楽しさだけでなく、期待する楽しさ、実施後の楽しさなどを含む、全体としての好ましい流れになる方向で求めさせていくことである。

第三の原則は、児童・生徒に、体育・スポーツの実践によって、積極的休息としての楽しさ、生きがいとしての楽しさ、生きようとする方向での生活全体の楽しさを求めさせていくことである。

上述した方向で、体育・スポーツの楽しさを味わえるようにするには、学校体育では、児童・生徒が生活の体育化の中でそれらの楽しさを図っていける能力を意図的に高めることが何よりも重要になってくる。換言すれば、楽しさに関する実践学力を意図的に高めなければならないことになる。このような学力は、体育目標とする精神的諸能力のうち、知力(狭義の実践的学力)の最も重要なものの一つとして位置づけることができよう。

このように検討してみると、体育・スポーツの楽しさに関しては、楽しさそのものを主なねらいとしていくだけの実践や指導では、体育・スポーツの果し得る役割は、きわめて限られたものになってしまうと考えられる。